まちのわだい
masaki's town news

▼5月20日
宗意原自主防災会が訓練

宗意原防災訓練は、松前中学校で行われ、住民約 80 人が参加しました。
訓練では、初期消火訓練、救護訓練、応急処置訓練、避難用具の展示説明などが行われました。このうち、応急処置訓練では、消防署員の指導を受けて、身近にあるものを使った骨折処置などを実演。参加者は、真剣な表情で取り組み、いざというときの対処法を学びました。

▼5月27日
梅雨に備え 500 人が訓練

重信川流域の3市2町や国土交通省などは、重信川河川敷で水防訓練を実施しました。
梅雨や台風シーズンの到来を控え、関係機関の連携体制を強化しようというもので、訓練には消防団員や自主防災組織の地域住民ら約 500 人が参加。それぞれ役割を分担しながら、土のうづくりやロープの結び方を学び、災害時の備えを確認していました。

▼5月30日
危険箇所をパトロール

梅雨や台風シーズンに備え、町の水防関係者は、河川などをパトロールし、危険箇所を点検しました。
パトロールには、松山河川国道事務所、中予地方局、警察、消防や町などから 20 人が参加。重信川や長尾谷川などを巡回し、危険箇所の状況を確認して、管理者から水防区域などの説明を受けました。

▼6月4日
商工会が大規模災害対策基金へ寄付

松前町商工会は、毎年、チャリティーゴルフ大会で集めた募金を町へ寄付しています。本年度も、5月 27 日に行われた大会の募金が、三好茂会長から白石勝也町長に手渡されました。
白石町長は「大規模災害対策基金として大切に積み立て、災害が起こった際の応急対策や復旧対策などに利用させていただきます」と感謝を述べました。

▼6月13日
園児が恒例の田植え

農業を通して自然に触れてもらおうと、弓立俊正さん＝徳丸＝が所有する水田で、青葉幼稚園の園児80人が田植えをしました。
水田に入った園児らは、足をとられて泥だらけになりながらも、楽しそうに苗を植えていました。
小倉かおるちゃん（5）は「泥がぬるぬるで気持ちよくて楽しかったです。またしたい」と笑顔で話していました。

▼6月15日
園児と先生が緊急時の役割確認

松前幼稚園の園児は、給湯室から火災が発生したという想定で、避難訓練を行いました。
園児たちは、先生の「走らないよ」という指示を守りながら、口元をタオルでしっかりと押さえ、駐車場まで避難。訓練後は、先生が消火器を使った消火訓練を行い、「火事の時は先生が消火器を使うから、みんなは『火事だー』と大声で知らせてね」と、園児たちと緊急時の役割分担を確認しました。

▼6月20日
収穫が楽しみだね

北伊予小学校の5年生は、米作りについて勉強する総合学習の一つとして、神崎地域の人たちと田植えをしました。
ほとんどの生徒が初めて経験したという稲の手植え。足をとられて泥で服や体を染めながらも、稲を等間隔に植えていきました。地域の人の協力を受け、1反5畝分を3時間で完成させた生徒たち。この努力と苦労は、秋の収穫期にきっと実るはずです。

▼6月23日
西高柳の芸達者が集合

「第 26 回西高柳ふれあい芸能発表会」は集会所で開かれ、大勢の観客が会場に訪れました。
発表会では、この日のために一生懸命練習を積んだ出演者たちが、カラオケ、引き語り、舞踊、フラダンスなど、バラエティに富んだ演目を披露。飛び入り参加で芸を披露する人もいて、会場は大いに盛り上がり、出演者に対して温かい拍手が送られていました。